

●新刊紹介●

建設現場の感動体験談集

建設業で本当にあった心温まる物語Ⅱ

編・著 降旗 達生

「KUS (Kitsu)」[汚 (Kitana)]「危険 (Kiken)」。SのゆるぎとKと

「建設業で本当にあった心温まる物語」は、愛知県名古屋でコンサルタント

会社を経営、NPO建設経営者倶楽部KKC理事長として建設会社の業績向上に向けた活動を行っている降旗達生さんが、建設従事者、関係者から集めた、心温まる体験談集だ。昨春の第1弾に続きこのほど第2弾となる「物語Ⅱ」が発行された。「建設業は、つくって

物語Ⅱの冊子から

私の父は、木更津市内にある生コン会社に勤務し、雨の日も風の日も、体調が悪くても毎日休まず運転手としてがんばって働いています。私が小さい時からその会社に連れて行って、大型のミキサー車に乗る、排水路の小規模な工事現場や、私が今、維持管理している高速道路の建設現場など、父がどんな仕事をしているか自慢げに見せてくれました。その時の私は土木仕事

と話す降旗さん。多くの読者に建設業の良さを知ってほしいと、現場で出会った建設技術者、職人、その家族にインタビューしたり、執筆を依頼して、延べ1000人の心温まる物語を集めた。

回収作業をするお父さんが恥ずかしくてたまらなかったのが、「父ちゃんみたいな人が必要なんだよ」と他人から声をかけられ、そんな

な気持ちを感じ直す男性。ホームと鉄道を測量し、電車とホームがぶつからないかと固唾を飲んで見守る新入社員。せっかくなった建物猫を救出するために壊す親方さん。苦情ばかりだった飲食店の店主から親子井を馳走される現場作業員。JAFに代わってタイヤのパンクを直してあげる高速道路の維持管理作業員。名もない幾つものエピソードが、地図に残る大きな仕事は、人と人の小さなドラマの積み重ねでできていると、改めて気づかせてくれる一冊。発行はハタ教育出版、定価各500円＋税。詳しくは電話0120(926)810。

体あまり興味がなく、大型型車に乗れるだけで楽しかったのですが、中学・高校生になるにつれて反抗期を迎え、父と話をするのはケンカする時だけになってしまいました。まさに犬猿の仲というやつです。これは、すさまじいもので、父もさぞ参ったものだと思います。そんな父に対して私は「ざまあみろ」とさえ思っていました。それがどうして、今の私が土木業界に勤め、今の幸せな人生を歩めているのか、やはり振り返ってみると、やは

りそこには大型ミキサー車で様々な工事現場に連れて行ってくれた父の背中を追いかけている自分がいました。悔しいですが、これはまぎれもない事実でした。今年で父は定年退職を迎えます。その時は今まで話ができなかった分、感謝が飲み交わしながら、ゆっくりに話したいと思っています。「おやじが打ったコンクリートは俺が守っていくから心配するな」と。



建設業で本当にあった心温まる物語Ⅱ